

美術館建設運動の經過

廣瀬 熹六

美術館の建設は最早議論の時代を過ぎてゐる、今は此適切なる時機に於て一日も早く實行を急がなければならぬ、斯う云ふ希望が自然に一致したところから眞先に結合したものは都下新聞雑誌の記者會である。十一月十四日夜、十新聞、二雑誌の有志記者は鴻の巣に會合して、種々意見を交換し、次いで十六日夜日本美術學院内に集合して美術館建設期成同盟會を設け、先づ大に氣勢を擧げやうと申合せた。その結果美術界に關係ある各方面の名家の賛同を求め數日の間に下記の諸氏に發起者たる快諾を得た、此一事のみを以ても此運動が如何に剴切であり、如何に急要であるかを知られるのである。で取敢ず發記者總會を開くべく十一月廿六日夜燕樂軒に參集して熟議を遂げた。議題は建設を企圖する美術館の實質如何、期成同盟會の成立に關する方法及其順序如何の二つであつた。此討論は將來の參考になるべきもの故こゝに採録する。

坂井犀水、田口鏡次郎二氏より衆議に諮り正木直彦氏を座長に推薦し會議を始む。

▲座長 美術館建設期成同盟會を設立すべきものであるか否やを先づ衆議によりて決したいと思ひます。

▲高村光雲氏 美術館建設期成同盟會の設立に賛成致します。

▲座長 満場一致を以て美術館建設を期する事の案が成立しました。それから之れは諸君に御計りするのですが例ば天然物を蒐集したる處を博物館と云ひ美術品を蒐めたる處を美術館と云ふが如く單に美術館と言ふ言葉の

みにては誰しもが一致せぬと思ひますが美術館と言ひ乍らそれは美術博物館と言ふ意味であるかその範圍を定めて置く必要があると思ひますが如何ですか。

▲坂井犀水氏 國民美術協會の先日文部大臣を訪問して意見を述べた處に依るとそれは展覽會場を本位として明治以降の美術品を陳列するところになつて居つたと思ひますが同盟會の意見を決めて置けとのとですが之は私も希望する處で御座ります、個人としては成る可く範圍を決めて置くと思ひますから目下必要として居る美術陳列館の設立を先きに要求すべきものと思ひます。

▲坂崎垣氏 私には坂井氏の説に賛成致します。

▲黒田清輝氏 何れの美術館が出来ても結構ですが美術家として意見を述べますと陳列館とか新しい美術品を陳列するとかは目下應急の希望ではありますが私は本當の意味の美術館を要求したいと思ひます、先づ巴里の「ルーブル」の如きものの之れが日本に必要なものであらうと思ひます、坂井坂崎兩氏のは目下一番必要のものを目的にして取掛りたいと云ふのであるが折角期成同盟會の出来る以上は日本に必要な美術館を設立したいと思ひます、新しい美術品を陳列するものが出来てもよろしいが一部分をのみ目的とせず大きな目的に向つて設立したいと思ふのであります。

▲坂井氏 私共は便宜を先きに考へて置かねばなりませんそれらの目的の研究に就ては追て研究すべき調査機關を設けてそれに委せ今日はそれを決めずして委員會で議するのがよいかと思ひます。

▲高村氏 只今美術館のことに就きまして意見がありました黒田氏の説の如くに美術館と陳列館とを併せて設

立したいと云ふのは私も美術家として望む處であります。然し兩方と言つても容易で無いから自分の考へでは今日は民間に富豪も多し當局には最も適當な人を得た時なり。平民主義の内閣なれば時機は逸す可らず成る可く充分に奮發するがよろしいと思ひます。

▲田口鏡次郎氏 方法論に先き立ち期成同盟會は如何なる人々よりなるかを決め今日の諸氏は發起人となつて戴て朝野官民より成立つものに致したいと思ひます。

▲座長 期成同盟會の目的物を何とすべきか。問題となりましたが之の目的を確と決めずして包括的の美術館と言つて置いて其の内容を決めず實行の場合には美術館は如何なるものか。怎う云ふ大さき設備のものになるかと。か其他細かき計算等は委員が出来て決めることにして只今は單に義術館として話を進めたものでしょうか。如何です。

▲黒田氏 成る可く廣義に於ける美術館として置き度いと思ふのであります。美術館の必要は時期の問題ではありません。一の理想として我國に必要なりと云ふのが設立の希望を持つ理由であります。折角同盟會が出来た以上は兎に角大目的を日本に必要な各種の美術館を設立することに決めて置き度いと思ひます。

▲坂井氏 問題となりました美術館に就ての範圍を定めるとは暫く延ばして先づ今夕御集合になつた方々と賛成者とを發起人にして而して美術家全體からの期成同盟會を作り度いと思ひます。今夕は即ち發起人會として議事の進行を望みます。

▲有島生馬氏 美術館の設立は重に現代の美術の爲めの美術館であらうと私共は理解して居つたのであります。が廣い意味の美術館となりますと古い美術をも蒐めるとになります。が期成同盟會の目的とする美術館は如何なる

種類の美術館であるか發起人にお聞き致します。

▲黒田氏 有島君は現代の美術の陳列館を意味し又人に依りては差當り陳列場を目的としてあの竹の台陳列館に代つて立派な陳列館を希望する人もあり、又國民美術協會は兩方を附け加へて展覽會場を目的として陳列館を拵へたいと言つて居ります、吾人は國立美術館を以て其目的のしたいと思います、折角各種類の大同團結が出来たのでありますから大目的に向つて進み度いのです。

▲山本鼎氏 私は有馬^マ氏の説と少しく異つた目的であります、それは現在展覽會場として完備した會場が無いから吾々はそれを建設されんことを希望します。

▲永地秀太氏 我々の痛切に考へて居るのは展覽會場であつて美術展覽會場建設期成同盟會と名稱を決めるのが好いかと思ひます。

▲近藤宅治氏 此際斷つて置き度いのは美術記者會が發起に非らずして今晚が發起人會で吾々は準備をした迄であります、從て今後は美術家大會をも開き度い考へであります。

▲座長 當座の問題として美術展覽會場を先きに起したいのは誰しも同感と思はれます。

▲津田青楓氏 範圍の狭い方が早く埒が明くであらうし早く同問題が解決する方が好いと思ひます必要な問題から決めて行かうではありませんか

▲黒田氏 諸氏の御意見は必しも私の意見に反對と云ふものではありません、三ツの中何れが成立つても好いのであります、展覽會場と云ふと文展が一番大きい、これは當然文部省が今の儘で満足せず必ず文部省が努めるだら

うと思ひます、有馬^マ氏の新しい美術品を陳列するとも必ず必要であつて古いものより新しいものゝ方が急務であります、兎に角會が成立して實行に移る以上は成り立ち易いものからするのは當然でありますから單に之の展覽會場のみで期成同盟會が出来るのは情無いではありませんか、大體の目的は大美術館にあるとを取決めて置くのが好いであらうと思ふのです、國家的の事はさう短時日に希望すべきものではない出来る迄期成同盟會を設けて置き會の目的を大美術館とし委員の協議によりて端より決めて懸るやうにしたいのです。

▲有馬^マ氏 私の意味は展覽會場常設美術館とか云ふに非らずして過去の美術品を蒐める美術館と區別して現代並に將來に關する美術館を要求したいと思ふのであります。

▲黒田氏 大美術館と云ふのは一の大美術館で總てを網羅するものではありません、日本にも大美術館が一つで満足すべきではありません會が成立した以上は成る可く適切なものから各種の日本に必要な美術館を建設したいと云ふのが私の希望する處であります。

▲山本鼎氏 此の會にそれを背負はすのは問題が大き過ぎます、黒田先生の意味のものは不適當であるかと思ひます、もつと問題を限定して展覽會場本位の好いものを建設したい目前の希望を早く解決したいものです。

▲座長 黒田氏の説は不賛成の理由はありませんが今日の場合には斯かることを考えるよりも兎に角展覽會場を建設するに努めて置かぬと時機を失すると思ひます、古い美術品を蒐める美術館に就ては勿論怎うかせねばならぬが今日は帝室の御倉を拜借して居るのであつて宮内省もあれで満足はして居らぬがあれ以上の擴張は無理であるから之れは早晩國家の博物館として擴張されることになるであらう、多分宮内省も今日に於てもさう云ふ御考へで

あらうと思はれます、古く美術品を蒐める美術館を設けるのは建築はさして困難でないが内容が充實するとは困難であつて之れは今日の期成同盟會で考へる必要はないと思ひます、問題は此際は早く逃げぬ先きに捕へて置く考へが必要かと思ふが之れは私一個の私見であります。

▲朝倉文夫氏 期成同盟會は聲を大きくして一般有志から金を醸めやうとするのか結局私共から金を出して行くと云ふのか結局は聲を大きくするに止まりはしませんか原案を伺ひ度いものです。

▲坂井氏 私共から原案を出すことを希望されるのは御同感ですが私共は多忙でありまして落合ふ機會が無く記者側の意見として纏つたものではありませんが二三の説に依ると新聞機關に依つて一面聲を大きくし大臣にも美術界が其麼に必要として居るのであるかを認めさせるやうにし、先づ藤山氏の如き有力者を訪問して民間の代表者として文相を訪問して官邊の代表となさしめて實行の出來さうなものにしたいと云ふのであります

▲津田氏 政府に行らせるのと民間で行うのと二つありますが民間でやるならば藤山氏、個人として中橋氏其他實業家を發起人として期成同盟會を設立するのが好いと思ひます。

▲坂井氏 美術家大會には美術奨勵に關係のある先輩をも廣く集めて期成同盟會はかゝる同情者を蒐め實行力のある人達をも蒐め度い希望であります。

▲座長 黒田氏の説と山本氏の説に就て裁決を致します

▲有島氏 現代藝術を奨勵する意味の名稱を取つて期成同盟會はなるものと私は理解して居つたので現代美術を發達させる爲めの美術館たる設備をしたいのと云ふ意味であります。

▲坂井氏 それは設計次第で一部分は常設陳列館として置けば出来る事と思はれます便宜から行つたのは山本氏の説でそれだけでは物足らぬ有島氏の説に賛成します。

▲荒木十畝氏 差向きの機運としては民間に於て陳列館を建設するにあてつ^{ママ}美術館の建設は政府に向つて要求すべきものであらうと思ひます。

▲座長 黒田氏の説は古代現代の美術館も展覽會場をも包括したる美術館の完成に努め時期に應じて實行に移ること、坂井有島兩氏の説は現代美術を進歩させるに必要な設備を作る陳列館と現代美術の傑作を蒐める美術館の建設で山本氏の説は先づ陳列館を急速に設立すると云ふ説であります。

▲平福百穂氏 坂井氏の説によりて二百萬とか三百萬とか百五十萬位の豫算を拵^{ママ}て貫^{ママ}ひ第一期第二期と云ふ風にして第一に展覽會場を拵^{ママ}へることにしたいと思ひます。

▲川合氏 理想としては黒田氏の説に賛成しますが實際は目前の陳列館のみを拵^{ママ}へることに賛成します。
(此間山本氏と有島氏とは一致點を發見し山本氏の説は有島氏説に包含することとなれり)

裁決に移りて

黒田氏説 五人 否決

有島氏説 十四人 可決

▲座長名稱は美術館建設期成同盟會で異議ありませんか。

▲異議なし

▲座長 田口氏の説に依て出席せる發起人の外に同意を表して出席せざる人、出席の交渉をせぬ人にても之の目的に向つて交渉して適當な人をも發起人とするの可否並に人選を委員の評議に委かすことに決めて好ろしいですか。

▲賛成

▲座長 仕事が決まれば實行するに就ての委員が必要となります、この委員の内には誰に話をするにしても金は怎の位費るか完全に建設するには怎の位であるか地所を何處に選定するか地代のいる地面ならで平常金もいる次第であるから調査する委員の必要もあらう、大臣實業家に渡りをつける人をも必要であらう、總ては常任委員を置く必要はありませんか。

十人の準備委員を置くことに決し新聞十社は當然委員となり雑誌美術家より十人の委員を選出することになります。

▲賛成^{ママ}

▲座長 田口、坂井二氏は願はねばなりませんから殘八人となります

▲黒田、長原兩氏 私は除けて貰ひ度いのです。

▲川合氏 出席者のみでなく委員を發起人全體にして怎うですか、常任幹事は少數にした方が好いかと思ひます。

▲楠木清方 賛意を表して出席せぬ人をも發起人とし其の内より少數の委員を選んではどうです。

▲座長 記者十社 雑誌二社の外の委員は其方々にて相談の上適當に選抜して其決議には服従することにします、

期成同盟會は既に成立せる種種の團體との關係はありませんか^{ママ}外の團體と連絡して運動する必要がありますか。

▲山本氏 成る可く廣く關係したいのですが委員に委かせます。

▲座長 準備迄も總て委員に願ひます。

▲座長 大會を來月十日(火)午後二時より上野精養軒に開き準備は記者團にて計ることにします

尙右の外會計を田口坂井兩氏に委任し、事務所を

本郷區湯嶋六丁目二十

・日本美術學院内

に設くるの可否を議題とし満場異議なく之れを可決す。また之が必然の結果として田口氏に事務の主管を請はねばならぬ事となつた。

次いで早速大會の準備に着手し、左記の案内狀を四方に出して豫定の如く十日を以て大會を開催した。

大會案内狀

拜啓陳者多年美術界の懸案と相成居候美術館建設之義近來機運大に熟し來り候に依り此際一層其機運を促進せしめ速に其實現を期し申度候に就ては其第一着手として美術家諸君は勿論斯道に緣故を有せらるゝ朝野名流の賛同を得て美術館建設期成の目的を以て美術家大會を開催致度候間何卒御賛同被下來る十二月十日(火)午後二時上野公園内精養軒へ御來臨被成下度此段御案内申上候此大會は該問題に關する美術界に於ける熱望の程度を社會に向つて發表する譯にて多年の宿望の成否に關係不尠次第にも有之努めて

盛會を期し申度存候に付萬障御繰合せ御出席被下度特に御依願申上候
敬具

大正七年十二月 日

美術館建設期成同盟會發起人

石井 柏亭	伯爵	林 博太郎	伯爵	大河内 正敏	和 田 英作	鏑 木 清方	横 山 大觀	塚 本 靖	津 田 青楓	長 原 孝太郎	永 地 秀太	久 米 桂一郎	安 田 鞆彦	山 下 新太郎	正 宗 得三郎
工學博士								工學博士				子爵			
伊 東 忠太	岡 田 三郎助	岡 崎 雪聲	川 合 玉堂	香 取 秀眞	高 村 光雲	塚 田 秀鏡	土 田 麥僊	中 川 八郎	海 野 美盛	黑 田 清輝	山 本 清鼎	正 木 直彦	松 林 桂月		

藤島武二	寺崎廣業	朝倉文夫	赤塚自得	北村四海	滿谷國四郎	新海竹太郎	平福百穂	萬朝報記者	都新聞記者	東京日々新聞記者	中外商業新報記者	時事新報記者	やまと新聞記者	中央新聞記者	讀賣新聞記者	中央美術主幹	國民新聞記者
小杉未醒	有島生馬	荒木十畝	澤村專太郎	結城素明	南薰造	下村觀山		石井直三郎	林田源太郎	原田信造	大谷浩	太田稠夫	小川多一郎	金井泰三郎	加藤謙	田口鏡次郎	近藤宅治

東京朝日新聞記者	坂 崎 坦
美術旬報主筆	坂 井 義 三 郎
報知新聞記者	廣 瀬 熹 六

(いろは順)

此日集るもの二百〇八名、午後三時、正木美術學校長發起人總代として登壇、大會開會に至るまでの経過と將來の希望とを述べ、次に來賓代議士金杉英五郎氏は前議會に美術館建設議案を提出した緣故で賛成演説をなし、續いて中川忠順、代議士高橋氏等の演説あり、次に満場一致を以て左の決議文を可決した。

決議文

美術館建設期成同盟會は時勢の進運に鑑み美術館建設の急要を認め速かに此目的を實現せん事を期す

美術館建設期成同盟會

實行委員は追つて正木座長より指名する事となり、直に晚餐會に移り、食堂にては打寛ぎ愉快なる談笑の間に内田魯庵、小室翠雲、尾竹越堂氏等の卓上演説あり、田口米舩氏の發聲にて同盟會の萬歳を三唱し、一同の健康を祝して午後七時開散した。美術家の會合でこれだけ多數者の集つたのは未曾有の事だと稱される。

『中央美術』四〇(五一) 大正八年二月